

## 令和4年度 さいたま市立日進北小学校 学校関係者評価書

さいたま市立日進北小学校

学校関係者評価委員長 白石 嘉郎 

### 1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 15名
- (2) 実施回数 3回

### 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

#### (1) 「あいさつのできる子」について

- ・子どもが地域であいさつが苦手とのことだが、顔見知りになれば挨拶する。子どもに顔を覚えてもらえるよう、地域の方が努力することも必要だと思う。
- ・どの学校も子どもたちの地域で「あいさつが課題です」と言われるが、あいさつは心の明るさのあらわれであり、日進北小の児童は大変明るい。あいさつは相手のへの気遣い。大人が率先するべきである。
- ・土曜チャレンジスクールで子どもたちと関わることもあり、しっかりとすてきなあいさつをしてくれた。すてきなあいさつができていて感じている。

#### (2) 「思いやりのある子」について

- ・ICTは単なるツールであり、本来的な目的は児童への教育力の向上だと考える。ICT教育を推進するのは大切ですが、本来の目的を常に念頭に入れる必要がある。
- ・コロナ禍のこともあり、時としてオンライン授業の活用（ICT教育やタブレット活用）に効果があると思うので、今後も推進していただきたいと思う。

#### (3) 「意欲的にチャレンジできる子」について

- ・先生方の努力の成果があらわれた結果だと感じる。子どもたちの自尊感情を高める工夫は良いと思う。
- ・今の時代楽しい授業は大事だが、時にはダメな事はダメと言う厳しさも必要と思う。
- ・まさに、学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を工夫していることから、やる気を持たせる（自主性を育てる）ことは良いことだと思う。

#### (4) 家庭・地域と連携し、子どものやる気を育てることについて。

- ・地域団体に所属しているが、学校からの情報提供は十分だと感じている。
- ・公民館でも子どもたちの地域での一助として、また保護者の教育力を高めるため、多くの講座を企画し実施しているので、是非今後も連携してほしい。
- ・近くに当大学があるので、学生にボランティアを勧めた。今後も教職を希望する学生に声かけしたいと思う。（今年度は数名がボランティアで参加することができた）

#### (5) 働き方改革を推進し、教職員が生き生きと働ける職場をつくる。

- ・本来、働き方改革を推進するには、教職員の事務を軽減せねばならず、それには、平成31年度中教審答申のように、地域に担ってもらう業務を明確にする必要があるのではないか。
- ・働き方改革の推進は素晴らしいと思う。若い先生が増えているので、中堅・ベテランとのコミュニケーションを大切に、チーム学校として取り組んでいただきたいと思う。

#### 学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・「日本一すてきなあいさつ日北っ子」を目指して、教職員全員が率先垂範して挨拶の励行に取り組む。
- ・各教科領域で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、児童一人ひとりに「学ぶ楽しさ」を育てていく。
- ・教員、児童共に、恒常的にタブレット端末を利用していく。
- ・働き方改革を推進し、生き生きと働ける職場づくりを継続する。特に分掌組織の改善を続け、事務処理等の生産性を高め残業時間を減らしていく。
- ・コミュニティスクールを立ち上げ、活動を軌道に乗せる。年3回の学校運営協議会とスクールサポートネットワークの連携・協働を進めより、実効性の高い組織をつくる。

さいたま市立日進北小学校長 平塚 信也 

※ A4 1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。